

図書館員のひみつの本棚 第161回

今月は久しぶりに絵本の紹介です。

『みんな なかよし けんかばし』

ジョン・オッペンハイム／作 アリキ／絵 みき たく／訳 童話館出版
2016年 1400円（税抜）

＜お勧め年齢＞

乳幼児☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆ 小高学年☆ 中学生——
高 校—— 一 般 ——

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞

川をはさんで、東側と西側がいがみあっている村の人達。いつも、村にたった一本かかっている橋の上で、大人も子どもも悪口やげんこつの大喧嘩。

ところがある日、嵐で橋が流されてしまう。

村には、お医者も、仕立て屋も、パン屋も、靴屋も、お百姓も、みんな一軒だけ。

最初は西の人も東の人もお互いにせいせいしていたけれど、そのうち困ったことになってきた。

＜子どもに手渡す時のポイント＞

破天荒ないがみ合いと、ちょっと間の抜けた展開が大笑いの絵本です。

橋が流された後、「でも、おいしゃさんはどこ?」「川のむこう」、「でも、おひゃくしようはどこ?」「川のむこう」と繰り返されるところは、ぜひ子どもに「〇〇はどこ?」と問い合わせてあげてください。

絵はあまり遠目がきかない場面もあるので、読み聞かせというよりも、一緒に読みながら楽しむほうがよいと思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

